

「家がいいね」 第102号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2012. 11. 12

最高の一日、最良の最期は、どこで？

10月27日(土) 柏木哲夫先生と内藤いづみ先生の対談が日赤ホールで開催されました。終わりのある人生の最期、どのように過ごすか大切なヒントを聴きました。柏木先生が、医療やケアの方向性について説明された文を示します。



救急医療	技術力	さし出す	上から
一般医療	技術力+人間力	支える	下から
緩和ケア	人間力	寄り添う	横から

災害時、人が何を必要とする経過に重なります。

直後	さし出す	技術を	上から	技術力
初期	支える	身体を	下から	体力
中期	寄り添う	心に	横から	人間力
後期	背負う	たましいを	全体で	宗教の力

寄り添い、背負う部分が、緩和ケアにとっては真髓ではないでしょうか。

ユーモアで会場の笑いを誘われた写真を2枚。医療にとって、目線を上下からではなく、いかに横からを意識して築くかという話の中で登場しました。互いを気遣う横からの目線なら、「わかりあおう」という姿勢に繋がってゆきます。



次の写真は、**寄り添う**例として示されました。はるかに大きい小象でも、子どもに寄り添ってもらうことで、安心しているのが背中を見てもわかるでしょう。



励ますが、自分があまり関与せず、外から動かそうとする、上からの方向性なら、**寄り添う**は、逃げ出さず、場を共にしている横からの方向性と思いませんか。

生まれる時と死ぬ時は似ているんだよ

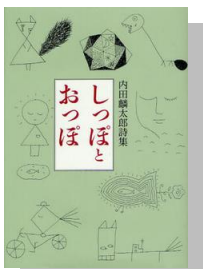
へその緒を首に巻きながら、逆子でゆっくりと生まれてくれた赤ちゃんとお母さんの智慧の姿を紹介されながら、内藤いづみ先生は、在宅の最期を幾つも紹介されました。詳しくは、次号にて。

ホスピス学校に参加のための**休診お願い**

12月8日(土)は、甲府市で内藤先生と詩人の内田麟太郎さんの対談があります。**勝手ながら当日は休診とさせていただきます。**在宅患者さんには、当院訪問看護師と代診医で対応いたします。

在宅ホスピスは、生活の中にあり、たくさんの文化がその中にはあふれています。昨年は、おむすびをいただきに、佐藤初女さんに会いに行きました(91号)。

昨年は家庭科、今年は国語のホスピス学校です。



今も話すことは、いっぱいある

世間では遺族と言いますが「介護を経験され、ひとりをされた方々」の集まる茶話会を、看護師たちが準備してくれました。3人の方々が10月末の午後に、縁の家に集まっていたきました。今にして話せる事が次々と湧いてくるようで、2時間、あつと言つ間に経ちました。今後茶話会の機会を持ちたいと思います。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>